

スミスフィールドフーズが中国最大の食肉会社に吸収

5月の終わりに業界では衝撃的なニュースが飛び込んできました。双匯集団 (Shuanghui International) という中国最大の食肉加工会社が世界最大の養豚生産者でありパッカーでもあるスミスフィールドフーズ社を買収したことです。買収金額が 71 億ドルというのも驚きです。双方の会社の役員会にて満場一致で決着したことから強い思惑がうかがわれます。最近はこの記事ばかり賑わっていますが実際はどうでしょうか。

スミス社の最高経営責任者ラリー・ポープ氏も率直に興奮気味にその喜びを吐露しています。彼にとって中国は、特に今後の豚肉需要が見込める大きな市場としての位置付けていながら攻略出来ない難敵だったのです。「アメリカにとっても非常に良いステップを踏み出せた。」彼はご承知のようにパッカーから身を起し、巨大な垂直統合を完成させてきました。これに対し中国を基盤とする Shuanghui グループがその実力を認知し、増大する自国への安定的な豚肉供給と共に頻発する国内の食品事件を受けて、技術レベルの高いスミス社と連携したことで、中国市場を視野にこちらも期待が高まっているようです。何かあるとすぐに輸入をストップしてしまう中国に対して正面切って真面目なビジネスが進められるという点で、アメリカ国内の消費に陰りが見え始めている豚肉流通の切り札として、明るい見通しを主張するアメリカ人も多いようです。

ビジネスの世界ではすでに多くの会社が中国マネーで買われていますので、大きな心配はないとは思いますが、食品農業部門でのこれほど大きな合併は初めてです。それだけに中国で大規模に養豚生産をしている企業からすれば、その影響は深刻なのではないでしょうか。日本の商社がスミス社を買収していたら、その脅威がわかると思います。いずれにしても今後とも目が離せない状況です。

2013年6月 グローバルピッグファーム(株)